

平成30年度 世界農業遺産小学生作文コンクール 入選作品集



○最優秀賞

豊後高田市立田染小学校 丸本 美暖 「世界農業遺産になったふるさと田染」

○優秀賞

国東市立国東小学校 弓長 伽耶 「みんなで守りぬくため池」

国東市立旭日小学校 難波 楓 「私とため池」

○入選

豊後高田市立高田小学校 高木 琉夏 「わたしのふるさとの世界農業遺産」

杵築市立杵築小学校 奥野 瑠璃 「干害を乗り越えた工夫がもたらすもの」

杵築市立立石小学校 芋岡 佑陸 「ため池が育む豊かな水田」

国東半島宇佐地域世界農業遺産推進協議会



国東半島宇佐地域世界農業遺産 Kunisaki Peninsula Usa GIAHS

平成30年度「世界農業遺産小学生作文コンクール」概要

1 目的

次代を担う小学校6年生を対象とした作文コンクールを実施することにより、広く世界農業遺産に対する関心を高め、理解を深める。

2 主催 国東半島宇佐地域世界農業遺産推進協議会

3 実施内容

- (1) 名 称 世界農業遺産小学生作文コンクール
- (2) 対 象 国東半島宇佐地域内在住の小学校6年生
- (3) 課 題 「私のふるさとの世界農業遺産」(題名は自由)
- (4) 原 稿 400字詰原稿用紙3枚以内(1000字～1200字程度)
- (5) 応 募 数 域内16小学校より80点

○最優秀賞 「世界農業遺産になったふるさと田染」

豊後高田市立田染小学校 6年 ^{まるもと}丸本 ^{みはる}美暖

「へえー、田染地区ってこんないい所だったんだな。」と四年生の「ふるさと学習」で、私は改めて思った。私の通っている田染小では、高学年の総合的な学習の時間の「ふるさと学習」で、田染地区の文化財や自然について、地域に足を運び、地域の方のお話を直に聞いて学習をしている。三年生までにも、地域を歩いて地図を作るなどの学習をしてきたが、「ふるさと学習」を通して、田染地区に残されているものの素晴らしさを実感した。その中で、私は初めて「国東半島宇佐地域が世界農業遺産に認定された」ということを知った。その時私は、世界農業遺産認定が、すごいことだということは分かったが、どのようなもので、どうして認定されたのかといった深い意味は分からなかった。

六年生になって、「木が食料を産む」を読んで学習して、世界農業遺産は「世界的に重要な農業の遺産システム」という意味だと知った。昔から国東地域には、たくさんのクヌギ林とため池があって、それらが育む「じゅんかんシステム」が世界農業遺産に認定された決め手になったそうだ。クヌギ林で原木を育て、伐採した木を使って、シイタケの栽培が行われる。クヌギは伐採されてもまた芽が出て再生するので、木材資源がじゅんかんするということになる。また、ため池の水も、農作物を育てて、川から海に流れ、海の生き物の栄養となり、蒸発して雲ができ、雨となる。その雨をクヌギ林が保水することで、ため池にはいつも水が保たれているというのだ。一つ目はシイタケ栽培を行うためのクヌギ林の輪、二つ目はため池がもたらす水の輪で、それらが農林水産の輪にもつながっていることが分かり、私は、とてもよく考えられているなと思った。

私は、世界農業遺産に認定された意味を知って、改めてふるさと田染について考えてみた。私は、小さいころクヌギ林で、カブトムシやクワガタムシを採って、観察した経験がある。とても自然豊かで、家の周りには、ホタルも毎年飛んでくる。クヌギ林や豊かな水がもたらす田染のお宝を、これからも私たちが守っていかなければならないと思う。

昔ながらの景観を保つ「田染荘」では、地域内外の人で、昔ながらの田植えや稲刈りを行っている。私も、毎年楽しみにして参加している。また、秋の三社祭りに参加したり、地域に伝わる盆おどりの口説きや太こにも挑戦している。このような地域に残されている伝統文化についても、何のために行っているのか、どんな思いがこめられているのかななどを調べていきたいと思う。

六年生の一学期に、「田染の魅力」というパンフレットを学級のみinnで作り、田染への移住を考えている人たちに配った。これからも、調べたことを発信したり、伝統文化に積極的にふれていきたいと思っている。

○優秀賞 「みんなで守りぬくため池」

国東市立国東小学校 6年 ^{ゆみなが}弓長 ^{かや}伽耶

私は最初、世界農業遺産についてあまり知りませんでした。だけど少しずつ勉強していくうちに、いろんな事が分かってきました。

一つ目は、世界農業遺産とはなんだろう？という疑問についてです。その答えは、世界の中でとても重要な農業システム、次の世代に引き継いで残していく値打ちがあるものと分かりました。さらに、世界農業遺産は世界20カ国50地域、日本11地域ほどしか認定されていないと聞きました。こんなにもすごい事だったとは全く知りませんでした。

二つ目は、何が重要で、何を引き継いでいくのかということです。ここ国東では、クヌギを活用した原木シイタケの栽培、複数のため池をつないだ農業用水の配水システムがすばらしいシステムだと認められて認定されています。だから、自分たちがこの重要なシステムをとだえさせてはいけなと感じました。旭日地区には21のため池があります。この中の一つの池もなくしてはいけなと思います。なぜなら、ため池が一つなくなってしまっただけでも、人々が作りあげてきたこのすばらしいシステムがとだえてしまう恐れがあるからです。昔の人々は、3つの知恵と工夫をされました。貴重な雨水を無駄にしないようにため池を作り、水路でつないだこと。ためた水を無駄にしないで公平に水がいきわたるように決まりを守ったこと。大切なため池、水路をみんなで守り続け、草刈作業や水路の泥上げ、修理などをしたこと。そこで、今私は水を無駄にしていないだろうかと考えました。私は時々、水を出しっぱなしにしている時があります。昔はとても貴重だった水のことを考えず、水を無駄にしている自分がみっともないなと思います。昔の人々の努力を知った今、これから、水を大切にしていくことを心がけて過ごしていきたいです。

さらに先日、社会見学で国東の中で2番目に大きい「高雄池」を見学しました。私が思っていたよりもずっと大きかったです。そこで、今でも地域の人みんなでため池を守っていると聞きました。ため池の水を利用する農家さん以外の人でも池のために草刈りをしたり、水路のそうじをしていると知りました。それだけ、地域の人が大切にしているんだと改めて分かりました。

この「世界農業遺産」に認定されている国東半島宇佐地域。引き継ぎ、引き継がれているこのシステムを大切にし、とだえさせないように、私達ができることに取り組むことが大切だと思います。

○優秀賞 「私とため池」

国東市立旭日小学校 6年 ^{なんぼ}難波 ^{かえで}楓

私が住んでいる地域、旭日地区にはたくさんのため池があります。なぜ、そんなにため池があるのかと私はぎもんに思いました。そこで、私は友達に聞いたり、調べたりしました。そしたら、ため池は私たちが知らないところで、とても重要な役割をしているということが分かりました。それは、雨水をためて時間を決めて、田んぼに水を放流しているということです。そんなに大事じゃないと思った人がいるかも知れないけれど、時間を決めなくて、水を田んぼに出しすぎたり、出さなかったりすると、田んぼがダメになります。ということは、お米もそだたなくなります。そしたら、お米が食べられなくなるので、私はそんな事は考えられません。おかずがお肉だったらお米はぜったい。おかずが魚でもお米はぜったい。どんなおかずでも、お米は必要です。なので、私はお米が大好きです。だから、ため池がないと、色々不便になり、ため池があるからこそ、私たちは幸せに暮らすということが分かりました。

でも、ため池があるだけじゃ、水を管理したり、池を守ったりはできません。そこで私は、池守さんという存在を知りました。池守さんは、池を守ってくれる人です。それは、地域の人がやってくれています。池守さんはため池の水の調整をしたり、ゴミをとったりして、きれいにしてくれています。また、ため池の周りの草を刈ってくれたり、ため池をきれいにして、守ってくれています。そんな池守さんを、私は尊敬します。なぜなら、池守さんはとても優しいと思うからです。ため池を守るために、水の管理を忘れずにして、ため池の水の量を保っているからです。私も大人になったら池守さんみたいに、池を守れるように、優しい大人になりたいです。

ところで、ため池がなぜ世界農業遺産に選ばれたのかと思ったので、世界農業遺産とはなにかを調べました。世界農業遺産とは、<G I A H S>の略で<世界的に>、<重要な>、<農業の>、<遺産>、<システム>です。ということは、ため池は、世界的に重要な農業遺産ということです。

江戸時代にできたため池のシステムが、今までずっと受けつがれてきていることがすごいなと思いました。

次は、私たちが受けついでいく番です。これからも、旭日地区にため池があることをほこりにして、地域の人たちの思いをつなげていきたいです。

〇入 選 「わたしのふるさとの世界農業遺産」

豊後高田市立高田小学校 6年 ^{たかき}高木 ^{るな}琉夏

私が世界農業遺産の作文を書こうと思った理由は、私達が住んでいる地域の歴史や、世界農業遺産はどんな物なんだろうと疑問になって、この機会に、調べたり、知りたいと思ったからです。

私が世界農業遺産ときいて、思い浮かんだことは、国東半島宇佐地域内だけではなく、大分全体で見られる、のどかな景色と、地域の特ちょうを活かした、特産品などが思い浮かびましたが、「木が食料を産む」を読むと、実際は、それだけでは世界農業遺産には認定されないと書かれていて、おどろきました。

次に、「木が食料を産む」を読んで、初めて知ったことは、私達の地域の特産品には、クヌギ林の輪とため池がもたらす水の循環の2つが密接に連けいした、「循環システム」という仕組みが関係しているということと、シイタケの生産量が日本一の理由は、クヌギ林が関係しているのと、ほだ木を使ったシイタケ栽培がシイタケの生産量につながっていると初めて知りました。シイタケ栽培は、小学校2年生の時に、もみじ村で体験したことがあったけど、とても時間がかかるけど、シイタケ菌の入った駒を打つのは楽しかったし、2年後にシイタケを採りに行くという学校行事があったので、学校とシイタケ栽培をれんけいさせて、子どもたちにシイタケ栽培のやり方を教えるなどをするすることでその伝統が引き継がれていっているから、大分県はシイタケの生産量が全国一位なんだろうなと思いました。

また、世界農業遺産の目的も初めて知りました。色々な生き物が共生している土地の利用と、土地の環境を活かした農業の方法、そして農村で行われるお祭りや風習・農村景観の保全という3つの地域のシステムを守っていこうということが目的でこんなに難しいシステムを私達が住んでいる世界農業遺産に認定されている私達のふるさは、本当にすごいところだと思いました。これからも、この地域にしかない行事に参加し、その伝統を受け継いでいきたいと思いました。

○入選 「干害を乗り越えた工夫がもたらすもの」

杵築市立杵築小学校 6年 ^{おくの}奥野 ^{るり}瑠璃

私は国東半島が大好きで、誇りに思います。それは、先生にもらった資料を読んだからでした。

私は二年生まで国東に住んでいました。下校時に、世界農業文化遺産に指定されるときに要点となった、ため池をいつも見ていました。その時は、臭いし汚いし何であるのかなと思いました。国東ではため池は萱島信任さんがつくったということを知りました。しかしそれが、国東の農業に大変貢献していることを最近まで知りませんでした。

その貢献とは、水の循環を生み出すことです。その水の循環とは、まず人がため池を作り、ため池にいつも一定に水が保たれることから始まります。さらにほかの複数のため池を連携させ、水の供給を一定にします。そうすることにより、田畑に一定した水を送ることができるのです。国東半島は元々水不足に悩まされたため、ため池が作られたそうです。ため池を作ることに、たくさんの費用とエネルギーがかかったそうです。多くの反対意見もあったそうです。しかしできた後は一定の水が供給されるため安定して米や農作物が取れるようになり、ずいぶん生活が向上したと聞いたことがありました。この話は国東でも教えてもらいました。そして最近杵築で、ため池がほかの生き物にも影響していることを初めて知りました。例えば、シイタケ栽培です。シイタケをつくる時にはくぬぎという、原木が使われます。その原木を育てるには水分を含んだ土地が必要です。その水分を供給するのがため池です。ため池のおかげでくぬぎが育ち、大分の特産品となりました。

私はシイタケが大好きです。香りもよいし、体にも良いからです。しかし、給食などでシイタケが出ると残す人がいます。私はその残り物を見ると、いつも残念に思います。シイタケは勝手に生えてくるものではなく、萱島信任さんを筆頭にみんなが工夫に工夫を重ねて、作ってくれたことをまず、私たちがもっと知って広めていきたいと思います。

そして私が誇る農業遺産がもう一つあります。それは、シイトウイです。豊表として使われる全国では国東市だけが生産している植物です。私はシイトウイを好み、コースターを作ったことがあります。それを教えてくれたとてもうまい先生は、天皇陛下に認められている腕前だそうです。私も、緑のいいにおいのするコースターを大事に使っています。

私は今でも残っている、干害を乗り越えてできた、国東半島のシステムをもっと学び、農業や食べ物、そして文化をみんなで大事にしていきたいです。

○入選 「ため池が育む豊かな水田」

杵築市立立石小学校 6年 ^{いもおか}芋岡 ^{ゆうり}佑陸

「なえはまっすぐ。深く入れすぎないように。二、三本ずつだよ。」

六月、地域の方の田んぼで田植えをしました。全校で、四反田学級のもちつきに使うお米の苗を植えました。一年生は初めてなので、班長のぼくは横で植え方をていねいに教えてあげました。植えた後、「これがお米になるのか、おいしいお米になるといいな」と思いました。

ぼくのふるさとの立石地区は、田んぼがとても多く、秋には金色の稲が風にゆれています。でも、立石の地形は山にはさまれて谷になっていて、中央に中くらいの川が一つしかありません。夏にはその水も少しになります。なぜこの地域でお米がたくさんとれるのかなと不思議に思っていました。

四年生で、その理由がわかりました。ため池がたくさんあるからです。そのため池は、野口善兵衛さんが作ったそうです。昔は、その水を田んぼに使ったので、お米がたくさんとれるようになったそうです。

毎年、ぼくの学校では、全校で田植えや稲刈りをして、とれたお米を使ってもちつきをしています。地域の人たちがきねやうすなどの道具のお世話やもちつき、もちまるめの手伝いをしてくれます。自分たちについて、かったお米でついたおもちはとてもおいしいです。地域の人もぼくたちも笑顔になります。

こんなおいしいお米がとれるのは野口善兵衛さんのおかげです。ため池はお米や農作物を作るためにはなくてはならないとても大事な物だと思いました。

このようなため池は、立石の周りの地域にもたくさんあり、平成二十五年に国東半島・宇佐地域は、世界農業遺産に選ばれました。ぼくは、そのことについてあまり知りませんでした。この作文を書くことになって、学校でみんなで紹介ビデオを見てびっくりしました。地域には、なんと千二百個のため池があったのです。なぜそんなにあるのだろうと思いましたが、他の地区も立石と同じように山などの地形で大きなため池を作ることができず、小さなため池をたくさん作って水を確保しようとしたことがわかりました。それに、お米のおいしさの秘密がくぬぎ林にあったことも知りました。ぼくはあらためて昔の人はすごいなと思いました。

今年の四反田学級では、昔の人たちの努力があっておいしいお米でおもちがつけるんだなと思いながらもちつきをしたいです。また、世界農業遺産に選ばれたふるさを大切にしたいです。